

第2期滋賀県スポーツ推進計画に基づく施策の実施状況について

(令和2年度実績)

第2期滋賀県スポーツ推進計画の概要

平成27年12月に公布、施行した滋賀県スポーツ推進条例に基づき、平成30年度から令和4年度までの5年間の計画期間とする「第2期滋賀県スポーツ推進計画」を平成30年3月に策定した。

・目指す姿

すべての県民が身近にスポーツを楽しみ、自ら進んで参画し、互いに連携・協働することを通じて、滋賀県民であることに誇りを感じて、幸福で豊かな生活を営むことができる共生社会の実現 ～スポーツで滋賀を元気に！ 滋賀の未来を創る！～

・基本方針

- I スポーツの力で「豊かで健やかな生活」を創る！
- II スポーツの力で「元気な地域」を創る！
- III スポーツの力で「感動の滋賀」を創る！

・政策

- 1 生涯にわたるすべての県民のスポーツ活動の充実
- 2 スポーツの持つ多様な価値の共有
- 3 スポーツ施設・環境の充実
- 4 スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化
- 5 国体・全国障害者スポーツ大会等に向けた競技力向上と競技者の拡大
- 6 地域の特性を活かした大会レガシーの創出

・計画期間

平成30年度～令和4年度 (5年間)

■指標の達成状況

・達成率

【(実績-基準) / (目標-基準) × 100】により算定

達成率がマイナスとなったものは「0%」、100を超えたものは「100%」としている。

・評価

滋賀県基本構想実施計画(第1期)に位置付けがある指標のうち同実施計画の年次目標を達成しているものは「A」、達成していないものは「B」、未集計は「N」として表している。ただし、同実施計画の年次目標に位置付けがない指標については、令和元年度は40%以上、令和2年度は60%以上のものを「A」、令和元年度は40%未満、令和2年度は60%未満のものを「B」としている。

評価	令和元年度	令和2年度
A:年次目標達成	6項目	3項目
B:年次目標未達成	9項目	10項目
N:未集計	1項目	3項目
合計	16項目	16項目

第2期滋賀県スポーツ推進計画 指標の達成状況（令和2年度）

評価	項目数	指標の内容 (網掛けは滋賀県基本構想実施計画に位置付けがあるもの)	令和2年度 の状況	目標 令和2年度※1	達成率 (%) ※2	
A	年次目標 達成	3	・アスリートを採用した県内企業数	44社	(45社以上)	92.3
			・スポーツボランティア登録者数 (本県ボランティア登録システム利用)	3,629人	2,000人	100.0
			・オリンピック・パラリンピックのホストタウンを通じて海外との交流を始めた市町数	5市	(6市町以上)	66.7
B	年次目標 未達成	10	・成人の週1回以上のスポーツ実施率(男)	50.1%	53%	49.3
			・成人の週1回以上のスポーツ実施率(女)	47.4%	53%	37.6
			・障害者の週1回以上のスポーツ実施率	28.9%	(65%以上)	0
			・しがスポーツ大使の就任数	40者	(50者以上)	58.3
			・総合型地域スポーツクラブで指導する有資格スポーツ指導者数	283人	(370人以上)	15.5
			・県内の公共スポーツ施設の利用者数	3,483,340人	(7,300,000人以上)	0
			・民間団体等の実施するスポーツイベントへの県の後援件数	54件	(200件以上)	0
			・スポーツ・レクリエーションを目的とする観光入込客数(暦年)	795万人	(1,200万人以上)	0
			・滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等のホームゲーム観客数	35,211人	(100,000人以上)	0
・県障害者スポーツ大会の参加者数	150人	(1,000人以上)	0			
N	未集計	3	・子どもの1週間の運動・スポーツ実施時間 (土日を含み、平日授業を除く) 【小学5年生】(男)	—	(625分)	—
			・子どもの1週間の運動・スポーツ実施時間 (土日を含み、平日授業を除く) 【小学5年生】(女)	—	(382分)	—
			・国体総合順位	—	(8位以内)	—

※1 滋賀県基本構想実施計画に位置付けがある場合は、当計画の年次目標数値を記載。当計画の位置付けがない場合は、第2期滋賀県スポーツ推進計画で定める令和4年度目標数値を()で記載。

※2 滋賀県基本構想実施計画の位置付けがない指標の達成率算定方法：

$$\frac{(\text{実績} - \text{基準})}{(\text{目標} - \text{基準})} \times 100$$

達成率がマイナスとなったものは「0%」、100を超えたものは「100%」としている。

滋賀県基本構想実施計画の位置付けがない指標の評価については、達成率60%以上のものを達成(A)、60%未満のものを未達成(B)としている。

【基本方針Ⅰ】スポーツの力で「豊かで健やかな生活」を創る！

■生涯にわたるすべての県民のスポーツ活動の充実（政策1）

【主な指標の状況】

指 標	策定時	R元	R2	R4 目標	達成率	評価
成人(男・女)の週1回以上のスポーツ実施率	男 35.6% 女 36.8% (H28)	男 45.6% 女 42.4%	男 50.1% 女 47.4% (目標 53%)	男女とも 65%以上	男 49.3% 女 37.6%	B B
障害者の週1回以上のスポーツ実施率	38.1% (H29)	—	28.9%	65%以上	0%	B

【主な施策の実施状況および今後の方向性】

- 働き盛りの世代や女性を対象に、運動・スポーツに取り組むきっかけづくりや習慣化を目的として、ウォーキングやオンライン運動教室等を実施した。(参加者 1,080人)

【今後の方向性】

コロナ禍の中でも安心・安全に運動・スポーツに取り組み、継続することができるよう、ウォーキングやオンライン運動教室等様々な機会の提供を行うなど、新しい生活様式に即した運動・スポーツの取組を積極的に情報発信することで、運動習慣の定着を図る。

- 障害者が身近な地域でスポーツに親しむことができるよう、総合型地域スポーツクラブにおいて障害者スポーツ教室を実施した。(9クラブ、参加者のべ784人)

【今後の方向性】

障害者スポーツに早くから取り組んできた総合型クラブのノウハウ等を他の総合型クラブにも広めるとともに、障害者福祉サービス事業所等とのマッチングを推進し、障害者スポーツのすそ野拡大を図る。



(障害者スポーツ教室)

- 体育・保健体育の授業の充実について、小学校では「新体力テスト新・分析支援システム」の活用や外部講師による運動教室等を実施し、授業改善を図った。また、中学校では先進県の取組と本県の課題を考察し、「滋賀モデル」の作成に取り組んだ。

【今後の方向性】

小・中学校共通のテーマである「子どもの体力向上」に向け、「運動への愛好的態度」の育成に努め、幼・小・中学校の連携、高等学校との接続を見据えて、校種の枠を超えた研修の機会や授業研究を充実させていく。



(外部講師による運動教室)

- 中学・高校における運動部活動については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により上半期を中心に多くの大会が中止・縮小される中、野球を始めとする様々な競技で代替大会を開催した。また、部活動指導員を幅広く派遣し、顧問の支援や指導力向上に取り組んだ。(部活動指導員 75人を中学校 49部(32校)、高校 26部(21校)に派遣)

【今後の方向性】

部活動のあり方についての方針を示した「部活動の指導について」に基づき、中学・高校における部活動がそれぞれの地域、学校、競技種目等に応じた形で適切に実施されるよう働きかけるほか、引き続き部活動指導員による顧問の支援や指導力向上に取り組む。

■スポーツの持つ多様な価値の共有（政策2）

【主な指標の状況】

指標	策定時 (H28)	R元	R2	R4目標	達成率	評価
アスリートを採用した県内企業数	32社	39社	44社	45社以上	92.3%	A
スポーツボランティア登録者数(本県ボランティア登録システム利用)	334人	3,379人	3,629人 (目標2,000人)	2,000人以上	100%	A

【主な施策の実施状況および今後の方向性】

- 「SHIGAアスリートナビ」を通じ企業とアスリートとの就職マッチングを進めた結果、新たに17名のアスリートが県内企業に雇用された。

【今後の方向性】

「SHIGAアスリートナビ」を活用し、企業と選手とのマッチングをサポートしてアスリート採用企業数の拡充に努め、トップアスリートの獲得を促進する。



(SHIGAアスリートナビ入社選手
中村夏樹(新旭電子工業株式会社))

- スポーツボランティアを確保・育成する「ゲームコンダクターSHIGA」では、ボランティアに関する基礎知識や熱中症予防に係る内容など多様なジャンルの研修をオンラインも活用しながら実施した。(研修実施回数 18回)

また、各種団体等が主催する大会やイベント等について活動の場を提供するとともに、コロナ禍においても機運やモチベーションを維持するため、スポーツボランティアの魅力等を伝える冊子を作成し、全登録者に配布した。

(活動者数のべ 1,018人)

【今後の方向性】

ボランティアが今後予定されている大規模スポーツイベントで活躍するためには、登録者が研修や活動に参加し、知識や経験を蓄積していただくことが重要であることから、活動参加を促す魅力ある事業が継続的に展開されるよう、スポーツボランティアの活動を支援する団体を設立するなど新たな枠組を構築し、本県におけるスポーツボランティア文化の醸成につなげていく。



(ボランティア研修)

- しがスポーツ大使を招へいたスポーツの魅力を伝える講演会等への支援や、コロナ禍でも子ども達がスポーツ活動に取り組めるようスポーツ教室への支援を行い、県民との交流を促進した。(実施件数 16件、参加者 1,259人)

【今後の方向性】

しがスポーツ大使から県民に向けたメッセージや動画等を積極的に情報発信するほか、「新たな生活様式」に対応した交流を促進するため、オンラインを活用した交流を検討する。



(しがスポーツ大使
MIOびわこ滋賀によるサッカー教室)

【基本方針Ⅱ】スポーツの力で「元気な地域」を創る！

■スポーツ施設・環境の充実（政策3）

【主な指標の状況】

指標	策定時 (H26)	R元	R2	R4目標	達成率	評価
県内の公共スポーツ施設の利用者数	6,617,409人	5,699,024人	3,483,340人	7,300,000人以上	0%	B

【主な施策の実施状況および今後の方向性】

- 県内の公共スポーツ施設の利用者数は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、大きく減少した。

本県で開催する国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けて、主会場となる（仮称）彦根総合運動公園の再整備については建築・造成工事等を実施し、滋賀アリーナ整備については建設予定地の造成工事完了の後、建物工事に着手し、琵琶湖漕艇場再整備については建物改築工事およびコース改修工事を完了させた。また、（仮称）草津市立プールの整備については草津市に対して財政支援を行った。



（（仮称）彦根総合運動公園整備状況（令和3年8月））

（主な施設の供用開始時期）

滋賀アリーナ	令和4年12月予定
（仮称）彦根総合運動公園	令和5年4月予定

【今後の方向性】

国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の競技会場としてだけでなく、県民のスポーツ・健康づくりの中核施設となるよう、周辺環境等にも配慮しながら、着実に整備を進めていく。

■スポーツを通じた連携・協働による地域の活性化（政策4）

【主な指標の状況】

指標	策定時	R元	R2	R4目標	達成率	評価
スポーツ・レクリエーションを目的とする観光入込客数	1,002万人 (H28)	1,105万人	795万人	1,200万人以上	0%	B
滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等のホームゲーム観客数	60,844人 (H29)	73,262人	35,211人	10万人以上	0%	B

【主な施策の実施状況および今後の方向性】

- スポーツ・レクリエーションを目的とする観光入込客数、および滋賀県を本拠地とするプロスポーツチーム等のホームゲーム観客数ともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により大きく減少した。

県内のプロスポーツチーム等の発信力を活かし、試合会場で大規模スポーツ大会の周知と機運醸成を図るとともに、チームのSNS等を活用した大会周知や啓発を実施した。



（滋賀レイクスターズによるカヌー紹介動画）

【今後の方向性】

また、引き続き県内のプロスポーツチーム等の発信力を活用し、スポーツの機運を醸成するとともに、プロスポーツチームやスポーツ団体が取り組む感染症対策の経費に対して支援を行う。

【基本方針Ⅲ】スポーツの力で「感動の滋賀」を創る！

■国体・全国障害者スポーツ大会等に向けた競技力の向上と競技者の拡大（政策5）

【主な指標の状況】

指 標	策定時 (H29)	R 元	R2	R4 目標	達成率	評価
国体総合順位	39 位	30 位	—	8 位以内	—	N
県障害者スポーツ大会の 参加者数	773 人	708 人	150 人	1,000 人 以上	0%	B

【主な施策の実施状況および今後の方向性】

- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、鹿児島県で開催予定であった第 75 回国民体育大会（本大会）および第 20 回全国障害者スポーツ大会の延期が決定した。

また、本県で開催する第 79 回国民スポーツ大会についても開催延期が決定したことを受け、競技団体会長会議を開催するなど、競技団体や影響を受ける選手等への経過説明を行い、本県開催に向けた士気の維持・向上に努めるとともに、各競技団体が感染症対策を講じながら実施する強化活動に対する支援を行った。

- 県内在住の小学 5 年生を「滋賀レイキッズ 7 期生」に認定（42 人）し、6 期生とともに育成プログラム（のべ 18 回）を実施した。

本県での国民スポーツ大会開催時に少年種別の中心となるターゲットエイジの中から強化指定選手として指定証を交付し、強化事業を実施した。

また、コロナ禍でも自宅でトレーニングできるよう、医科学サポートスタッフの協力のもと、トレーニング動画を作成し配信した。



（滋賀レイキッズ 7 期生認定証交付式）

【今後の方向性】

上位入賞が期待できる選手に対する個人指定強化対策を充実し、更なる競技力の向上を図る。国民スポーツ大会開催年に少年種別として出場する世代であるターゲットエイジの強化に向け、レベルの高い指導を受けられる機会の充実や中学校との連携強化を図るとともに、優秀な選手の県外流出の抑止に向けた取組を進める。

- 強化拠点校に優秀指導者を派遣する対象校（部）を拡充するとともに、新たに専門的な競技指導のできる指導者の配置を行い、継続して選手への指導ができる体制の整備を図った。

また、競技団体の指導力と組織力強化を図るため、各競技団体のプロジェクトチームリーダーを集め、専門の講師による研修会を開催した。

【今後の方向性】

引き続き強化拠点校に優秀な指導者を派遣し、拠点校の強化と魅力向上を図るほか、指導者の資質向上のため、トップレベルの指導者を積極的に招へいするとともに、将来の指導者となる優秀な選手の確保に努める。

■地域の特性を活かした大会レガシーの創出（政策6）

【主な指標の状況】

指標	策定時 (H28)	R元	R2	R4 目標	達成率	評価
オリンピック・パラリンピックの ホストタウンを通じて海外との交 流を始めた市町数	3市	5市	5市	6市町 以上	66.7%	A

【主な施策の実施状況および今後の方向性】

- ホストタウンに登録されている大津市、米原市、守山市、甲賀市、彦根市の5市と連携し、コロナ禍で相手国との直接交流ができない中、WEBを活用した交流事業を展開した。例えば、彦根市ではホストタウン相手国であるスペインの在住者も参加できるオンラインの市民マラソン大会「2020 Virtual Run ホストタウン HIKONE & SPAIN」(※)を開催した。

※内閣官房による表彰「ホストタウンサミット2021 いいね!賞」を受賞



(「2020 Virtual Run ホストタウン HIKONE & SPAIN」 走行路コンテスト 入賞写真)

【今後の方向性】

事前合宿の受入れをはじめとするホストタウン相手国との交流の経験を生かして、スポーツイベント等を誘致し、県立スポーツ施設等の有効活用を図るとともに、対象競技を地域のシンボルスポーツとして普及させていく。

- 本県での国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会の開催に向けて、会場地市町の選定を進めるとともに、競技会場となる市町に対して支援を行った。

また、両大会の延期に伴い、ポスター、チラシ、啓発グッズを新たに作成し、県内に幅広く掲出するとともに、様々な広報媒体、ラッピングバス、駅の大型階段を利用した広告等を通じて情報発信を行い、新たな開催年の周知と機運醸成を図った。



(JR草津駅西口 大型階段広告)

【今後の方向性】

すべての競技会場地の選定に向けて調整を続けるとともに、各競技会の開催に向けた準備が円滑に進むよう、市町、競技団体に対する支援を行う。あわせて、両大会の愛称・スローガンやマスコットキャラクターの活用、イメージソングの普及活動等を通じて広報啓発活動をより一層展開し、大会開催に向けた機運醸成を図る。